

資料５－１

**抜粋**

**未定稿**

大阪府がん診療連携協議会　相談支援センター部会

第２版

地域の療養情報

おおさか

**がんサポートブック**

ⓒ（公財）大阪観光局

**もくじ**

資料３

資料３

資料３

はじめに

1. がんの相談・情報
2. 医療のこと
3. 治療と生活にまつわる費用のこと
4. がん治療と働くことについて
5. 自宅で療養するには
6. 患者同士の支えあいの場
7. 小児・ＡＹＡ世代のがんの治療に際しての支援

別冊

**１．がんの相談・情報**

国が指定する「がん診療連携拠点病院」、府が指定する「がん診療拠点病院」には、がん患者さんやご家族等のがんに対する不安や疑問に適切に対応するための「がんの相談窓口」として、がん相談支援センターが設置されています。その病院に受診していなくても、無料で相談できる窓口です。

がん相談支援センターでは、看護師や医療ソーシャルワーカーなどのがん専門相談員が、電話や面接などによりがんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応しているほか、がんに関する情報を掲載したパンフレットなどを取り揃え、情報提供を行っています。がん相談支援センターで相談された内容が、ご本人の了承なしに、第三者に伝わることはありませんので、どうぞ安心してご相談下さい。

＊大阪府内のがん相談支援センターの一覧は巻末の別冊をご参照ください。

**2．医療のこと**

**（１）がんと診断されたら**

相談

―　がんと診断されてから治療までの流れ　―

* 病気の発見のきっかけ

がん検診、職場の健診、自覚症状（しこりをふれるなど）を

きっかけに病院を受診するところから、がんの診断は始まります。

◇　精密検査・病理検査

がんの疑いのある場所を、内視鏡検査\*1、超音波検査\*2、CT検査\*3などの、その場所をみるのに最も適切な方法で精密検査します。そしてがんが疑われる部位から一部組織を採取し（生検とよびます）、顕微鏡で観察する病理検査を行います。病理検査は、その組織が悪性かどうかを決めるとともに、悪性の場合はその組織の特徴から組織型を決めます。この段階でがんの確定診断となります。

\*1 内視鏡検査：胃カメラ、大腸ファイバー、気管支鏡など

\*2 超音波（エコー）検査：超音波で体の奥の状態を観察する

\*3 CT検査：体の周りからX線を当てて、断面像を観察する検査

◇　病期診断

がんの確定診断がつきましたら、今度はがんの広がりを調べる病期診断の検査を行います。がんの大きさ、臓器内の広がり（深達度といいます）、周囲のリンパ節の腫れ、他の臓器への転移（遠隔転移）の有無などを評価して病期を決定します。精密検査の段階で行った内視鏡検査や超音波検査、CT検査などは病期診断の検査も兼ねています。さらに、最近ではPET-CT検査\*4もよく行われます。血液検査で腫瘍マーカー\*5と言われるがん細胞が作る物質を測ることは、がんの診断や進行度を評価するうえで参考になります。

\*4　PET-CT検査：がん細胞はブドウ糖をよく利用するので、ブドウ糖に似た物質（FDGといいます）に放射性物質をつけたものを注射し、体全体の組織でのFDGの取り込みを撮影し、CT検査も組み合わせることで、どこにがんの組織があるかを調べる検査。FDGは炎症でも取り込まれることあるので画像の評価には炎症と見分けることが必要な場合もある。

\*5　腫瘍マーカー：血液検査でわかるがんの特徴的な物質。がん毎に異なる。消化器のがんや肺がんのCEA、乳がんのCA15-3などがある。

**（２）　治療法の決定**

相談

①　治療の前に全身の状態を評価します。栄養状態、心臓、肺、肝臓、腎臓などの状態をチェックします。

②　がんの組織型、病期から最も効果のある治療法を、診療ガイドラインなどを参考に選択します。診療カンファレンスなどで治療法を検討する場合もあります。

③　がんの治療法は、手術療法、化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療が3本柱であり、これらの治療法を単独もしくは組み合わせて治療を行うことになります。

④　インフォームド　コンセント（説明と同意）

治療法を決めるに当たっては、「期待できる治療の効果」、「治療に伴う副作用、後遺症の可能性」、「再発の可能性」などについて、主治医から十分な説明を聞き、しっかり納得した上でご自身にとって最も適切な治療法を選ぶようにします。



**３．治療と生活にまつわる費用のこと**

**（１）高額療養費制度**

1ヶ月で医療機関に支払った医療費の額が一定の基準額（自己負担限度額）を超えた場合に、その超えた金額があとで払い戻される制度です。70歳未満の方で、医療費が高額になることが事前にわかっている場合には、加入している公的医療保険の窓口で手続きを行い、「限度額適用認定証」を発行してもらいます。

ただし、入院時の食事代や差額ベッド代は対象になりません。自己負担限度額は、年齢や所得、加入している医療保険によって異なります。

* 限度額適用認定証の申請は、ご自身が加入

**申請窓口**

している各医療保険の窓口でご相談ください。



**◇７０才未満の方の場合**

1. 月別、入院・外来（在宅医療を含む）別、医療機関別に計算します。そのうち、21,000円以上のものを合計し、合計額が自己負担限度額を超えていた場合、超えた額について払い戻されます。
2. １２ヶ月以内に３回以上限度額を支払った場合、４回目以降の限度額は軽減されます。
3. 外来診療や入院で1か月に高額な医療費が予測される場合、保険者に「限度額適用認定証」（非課税世帯の方は限度額適用・標準負担額減額認定証）を交付してもらい、入院時に医療機関の窓口に提示すると、自己負担限度額のみの支払いとなります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 所得区分 | 自己負担限度額 | 4回目以降 |
| 標準報酬月額  83万円以上 | 252,600円＋(総医療費－  　　　842,000円)×1% | 140,100円 |
| 標準報酬月額  53万円～79万円 | 167,400円＋(総医療費－  558,000円）×１％ | 93,000円 |
| 標準報酬月額  28万円～50万円 | 80,100円＋(総医療費－  267,000円)×1% | 44,400円 |
| 標準報酬月額  26万円以下 | 57,600円 | 44,400円 |
| 住民税  非課税世帯 | 35,400円 | 24,600円 |

**４．がん治療と働くことについて**

今の仕事を続けていけるだろうか。退職して療養したいが、生活費や医療費をどうすればいいだろうか。治療や体調が落ち着いて、無理なく再開できる仕事はないだろうか。

仕事にまつわる悩みや不安があれば、一人で抱え込まず、まずは主治医や看護師、がん相談支援センターなどに相談してみてください。病院の他にも、仕事のことを相談できる窓口があります。

**（１）仕事を続けたい場合、復職したい場合**

がんだから、治療があるから、仕事を辞めなければならないとは限りません。がんと診断されても、仕事を続けている方はたくさんおられます。仕事を続けることが出来ないか、どうすれば続けられるかを考えるには、まずは、ご自身の病状や治療について、詳しく知ることが大切です。

①まず、仕事について不安があることを主治医に伝え、治療スケジュールや入院が必要な期間、予測される症状などを確認しましょう。

②次に、ご自身の職場の就業規則(有給休暇や病気休暇の制度など)や福利厚生制度について、人事や総務担当者に確認・相談しましょう。

③その上で休暇等をうまく使い、治療をしながら仕事を続けることが出来そうか、職場の人たちと話を詰めていくことが大切です。

　ご自身では解決できず困ったときは、がん相談支援センターのほか、次のような相談窓口に相談してみるのも一つです。

次に挙げる３つの相談機関はいずれも、労働に関して幅広い相談に乗ってくれること、必要に応じ「個別労働紛争解決制度」に沿って問題解決の支援をしてくれることで共通しています。ご自身が相談しやすいところに相談してみてください。

1. **大阪労働局　総合労働相談コーナー**

府内の各労働基準監督署や、大阪労働局庁舎内に設置されていて、

労働に関する幅広い相談や情報提供のワンストップサービスを行っています。相談内容によっては、双方の主張の要点を確かめて当事者間の調整・話し合いを促進するなどして、問題解決の支援をします。また、労働基準法に関わる問題であれば、そのまま労働基準監督署の窓口で相談いただくことも出来ます。

（相談方法）電話・直接来所による面談

（利用時間）

大阪労働局総合労働相談コーナー 月～金9:00～18:00

　　　　　　　　　　　　　　　　（入館は17:45まで）

上記以外の総合労働相談コーナー 月～金9:00～17:00

（場所と連絡先）

大阪労働局　総合労働相談コーナー(総務部企画室)

大阪市中央区大手前4-1-67　大阪合同庁舎第2号館８階

電話：0120-939-009　・　06-7660-0072

　または各労働基準監督署内総合労働相談コーナー



仕事の引き継ぎやさまざまな生活の段取り、

治療がある程度一段落した後の職場復帰や

経済問題などについての悩みに関するQ&A

● がんと仕事のQ&A

国立がん研究センターがん対策情報センター

がん情報サービス（http://ganjoho.jp）

**５．自宅で療養するには**

**（１）介護・生活面**

がんになってもあなたらしく暮らせるように、自宅療養を支える制度やサービスなどについて紹介します。

**◆介護保険についての相談・申請**

介護保険は、介護が必要となった時に安心して日常生活が過ごせるよう支援する制度です。

|  |  |
| --- | --- |
| 対象となる方 | 要介護状態にある65歳以上の方、40歳以上65歳未満の特定疾病により要介護状態にある方。 |
| 申請方法から　　サービス利用  まで | 住民票のある市町村、大阪市は大阪認定事務センターへ認定申請します。(居宅介護支援事業者、介護保険施設、地域包括支援センターに依頼して申請を代行してもらうこともできます。)認定調査員が伺い、心身の状況などについて調査を行います。認定調査の結果と主治医意見書により、介護を必要とする度合い（状態の区分）を審査して、認定結果が通知されます。認定結果に基づいて必要とするサービスについてのケアプランを立てサービス開始となります。 |
| 利用できる　　　サービス | 認定結果ごとの利用限度額内であれば、利用サービス料の1割ないしは2割が自己負担となります。  訪問介護、通所/訪問リハビリテーション、訪問入浴、福祉用具貸与、特定福祉用具購入費の支給、住宅改修費支給、短期入所、施設入所　など |

　●各市町村介護保険担当課

問い合わせ先

申請窓口

●地域包括支援センター

●居宅介護支援事業所等でも相談できます。

**◆身体障がい者手帳についての相談・申請**

身体障がい者手帳は、病気やけがで一定の障がいが残り、その障がいが「障がい固定」であると認められた場合、様々な福祉サービスが受けられる制度です。介護保険制度と重なるサービスは介護保険制度が優先されます。

|  |  |
| --- | --- |
| 対象となる方 | 視覚、聴覚、平行機能、発声・言語機能、咀嚼機能、肢体、心臓機能、腎臓機能、呼吸機能、膀胱又は直腸機能、小腸機能、肝臓機能、免疫機能障がいと認定された方 |
| 手続き方法 | 主治医に身体障がい者手帳に該当するかを確認します。（かかりつけの病院に身体障がい者福祉法第15条に基づく指定医師がいない場合は、市町村障がい福祉担当課でお尋ね下さい。）交付申請書、診断書・意見書の用紙は申請窓口にあります。身体障がい者手帳交付申請書（押印が必要）、身体障がい者診断書・意見書（指定医師が記載したもの）、写真を添えて申請します。 |
| 利用できる  サービス | 運賃の割引、税金の控除、自立支援医療、日常生活用具の給付（介護ベッド、マット、蒸気吸入器、電気式痰吸引器等）、補助具（車いす、人工喉頭等）の給付、ホームヘルプ、ショートステイ　など。  ＊障がいの種類や程度、お住まいの市町村によって受けられるサービスは異なる場合があります。 |

**申請窓口**

●各市町村の障がい福祉担当課

**６．患者同士の支えあいの場**

患者会と患者サロンについて

患者同士の支え合いの場には、患者会と患者サロンなどがあります。患者会とは、同じ病気や障がいなどの共通する体験を持つ人たちが集まり、自主的に運営する会です。互いの悩みや不安の共有、情報交換、社会に向けた活動を行っています。特定のがんに限った会と、特定しない様々な種類のがんを対象とした会があります。

患者サロンとは、がんのことを勉強したり、患者さんやそのご家族の方同士が、気軽に悩みや体験を語り合い、交流できる場のことで、病院内や地域に設置されています。患者さんやご家族が主体となり運営しているところや、医療者が中心に活動を行っているところなど様々です。

患者会や患者サロン等患者同士の支えあいの場の情報については、地域のがん診療拠点病院のがん相談支援センターにお問い合わせください。





**７．小児・AYA世代のがんの治療に際しての支援**

**（１）小児・ＡＹＡ世代のがん**

小児がんは、小児がかかる“がん”の総称です。主な小児がんは、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、肉腫などです。治療は、疾患やがんの進行度、転移の程度に応じて、手術、化学療法（抗がん剤治療）、放射線療法、造血幹細胞移植などを組み合わせて行いますが、長期の入院が必要となる場合もあります。成人と同様、早期診断、適切な治療、緩和ケア、フォローアップといったトータルケアの実施や、小児の発達・発育段階に対応した生活面や教育面で社会的なサポートが必要です。

また、思春期・若年期に発生する“がん”を、Adolescents and Young Adults（AYA）世代のがんと呼びます。がんの種類は様々で、白血病など、小児に多いがんに加え、消化器がん、婦人科がん、内分泌系腫瘍、リンパ腫、中枢神経腫瘍（脳腫瘍）など、成人がんも多くなります。がんの進行度や転移の程度に応じた治療とともに、進学、就職、結婚、出産など様々な社会的変化を伴う年代であることから、年齢に応じた療養環境や人的サポートが必要です。

不安や心配なことがあれば、医師や看護師、がん相談支援セン

ターなど病院スタッフにご相談ください。

**（２）大阪府における小児・ＡＹＡ世代のがん診療体制**

小児・ＡＹＡ世代のがんを専門的に診断・治療する病院として、国が指定する、小児がん拠点病院が全国で15施設、大阪府では２施設（大阪市立総合医療センター、大阪府立母子保健総合医療センター）あります。大阪府では、この２病院が中心的役割を担うとともに、さらに８病院を加えた10病院が連携・協力（大阪府小児がん連携施設連絡会）する体制を整えています。

**（３）小児・ＡＹＡ世代のがんの治療に際しての支援**

**◆経済的支援**

健康保険のほか、小児慢性特定疾病医療費助成制度や小児医療費助成制度などの支援制度を利用できます。受診される病院のがん相談支援センターや受付窓口にご相談ください。

**◆宿泊施設**

ドナルド・マクドナルド・ハウス おおさか・すいたハウス（電話：06-6836-6551）やアフラックペアレンツハウス大阪（電話：06-6263-1415）のほか、病院が運営している附属の宿泊施設もあり、利用可能です（有料）。

**◆がん相談支援センター**

大阪市立総合医療センター、大阪府立母子保健総合医療センターでは、受診の有無に関わらず小児がんに関する相談を受け付けています。きょうだい支援など、診療に直接関係ないようなことについても取り組みを行っていますので、ご相談下さい。なお、電話でも相談を受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

**（４）学校教育**

小学校・中学校については、病院内に、小中学校の院内学級や支援学校の分教室が設置されている場合があります。また、入院した病院に院内学級等がない場合でも訪問指導による授業が行われています。府立の高校については在籍校の教員が病院に出向き授業を実施する制度があります。

体調への配慮や転入学等の手続きが必要ですので、主治医や看護師など病院スタッフや学校の先生・教育委員会によく相談してください。

**（５）患者団体**

患児・家族による交流会や相談会の開催、病気や療養生活についての随時相談など、必要なサポートや情報提供を行っています。どんな患者団体があるのかは、医師、看護師、がん相談支援センターにご相談ください。